

クイック・リファレンス

1. [アイソレーション]を創造する。

まず初めにあって、自分たちの共同体を作ります。以下のステップを踏みましょう。

- [バックドロップ]を選ぶ。概要を読み上げます。
- [アспект]を生成する。2つの[アспект生成質問]に答え、3つ目は自由に決定しましょう。
- [共同体への質問]に答える。
- [アイソレーション]に名前を付ける。

2. キャラクターを作成する。

初めに各参加者に[アーキタイプ・カード]を3枚ずつ配ります。受け取った参加者は……

- [アーキタイプ・カード]の中から1枚選ぶ。選んだカードを読み上げて、キャラクターの焦点となる[アспект]を言いましょう。
- 自己紹介する。名前(普通の名前と一部にのみ知られた名前)、役割、[アспект]との関係を含めましょう。

3. プレイの流れ

初めに各参加者に[言語デッキ]から[時代1]のカードを3枚ずつ配ります。手番の進行は以下のように行います。

【関連付け】

現在の[時代]の[アспект]1つに対して、手札からカードを1枚使用します。なぜその[アспект]から、カードに書かれた概念に相当する言葉が[アイソレーション]で出てきたのか説明しましょう。

【単語成立】

この前のフェーズで作った[関連]に基づいて、この新しい概念を指す単語をみんなで作りましょう。

【会話】

手番の参加者は、一緒に遊んでいる参加者から何人かを選びます(全員でも、自分を含めなくても構いません)。選ばれた参加者は使用されたカードの下部にある文言に従って会話を行いましょう。会話に加わっている人全員が新しい言語との関係を示した後であれば、参加者の誰が会話を終わらせても構いません。

[アクション・カード]の中には、手番進行を変更するものがあります。その場合は、カード記されています。手番の最後、今が[時代3]でなければ次の[時代]のカードを1枚引きます。参加者であれば誰でも、いつでも手札からカードを捨てて[変異形]を導入できます。この[変異形]とは、すでに定義されている[言語アイテム]と何らかの関りがある単語のことです。[変異形]を作ったら、次の[時代]のカードを1枚引きます。

4. [時代]を渡る

[時代]は、参加者全員が手番を1回受け持つと終了します。その際には、以下のことを行います。

- [移行のきっかけ]と[展開]の次の段階を読み上げる。ともに[バックドロップ]に記されています。
- [アспект]を進化させる。進化させた[アспект]を新しい[時代]に置き、古いものはそのままにします。それ以外の[アспект]は新しい[時代]に動かします。
- 手札からカードを1枚捨てて、新しい[時代]のカードを引いてもよい。

5. [遣されゆくもの]

[時代]3を終え、最後の[展開]を読んだら物語をまとめる時です。参加者全員に[遣されるものカード]を1枚ずつ配ります。参加者ごとに次のことを行い、ゲームを終わらせます。

- 終幕を物語る。[遣されるものカード]の提案の中から1つを選び、キャラクター自身または[アイソレーション]全体のために短く終幕を語りましょう。

先遣隊

不屈の魂を胸に我々2,000人は、第一次火星探査の先遣隊として2045年に地球を旅立った。出発時には、かなりの数の後発隊が来ると言われていたが、事実はそうではなかった。火星滞在5年後には通信が途絶え、最後に地球からの発信を聞いてからもう何年もたっている。嫌が応にもこの「赤い惑星」を、今や本拠とせざるを得ない。

この厳しく不毛な荒野に対し、我々の真髄を、生き残ること以上の意味をしめしてみせよう。

〔アспект生成質問〕

- **選ばれし者たち。**ミッション達成のために私たちを結束させたものは何ですか？
- **赤い惑星。**日常生活を形作る火星の特徴とはどんなものですか？
- [自由アспект]。好きに決めてください。

名前

サル・アカバ、グレイソン・ヴァイン、ジューン・ベラミー、ライカ・ティモンズ、ヒューゴ・シルバ、エドナ・ベケレ、アネット・ケネディ、ファティマ・シャー、リコ・フジタ、ハンナ・パーク、ベンジー・ラバット、タマー・ダイクストラ

〔時代の移行〕

〔時代〕2へ移るにあたって〔展開〕を(左の黒の欄か、右の赤の欄か)選ぶ。

以降は、選んだ方の〔展開〕が続く。

〔時代〕2へと移る。〔アイソレーション〕の終わりを予感させる出来事。それはあらゆる会話の中に潜んでおり、無視などできない。

先遣基地から遠く離れた赤い砂に、何かが埋まっているのが発見されました。地球からのものですが、どう見ても私たちにに向けたものではありません。必要物資の事前投下。その意味するところは一つだけです。別勢力が迫っています。

補給箱を検分していた私たちの間に緊張が高まります。私たちは何を見つけたのでしょうか、そして心配し始めたのは何故ですか？

〔共同体への質問〕

- 通信は断絶したのはなぜですか？〔アспект〕のうち1つがその一因です。それは何ですか？
- 私たちは基本的な生活必需品をどうやって生産していますか？
- どのような建造物に住んでいますか？ 全体集会用の場所がありますか？
- ここでの生活で一番苦労しているのは誰ですか？
- 私たちに影を落とす内なる脅威は何ですか？

サイレンが鳴り響きます。何かがおかしいのです。システム主系統が故障しています。誤動作は今に始まったものではありませんが、これは想定外です。起きてはならないことが起きていました。私たちには計画があったというのに。

理屈上はバックアップがあるはずなのですが、それが必要になるとは誰も思っていませんでした。強硬手段に訴えるのは誰ですか？そして強硬手段に反対意見が出るのは何故ですか？

〔時代〕3へと移る。予期されていたことが起きてしまう。〔アイソレーション〕の終わりは近い。この定めからは逃れられない。

植民船が軌道に入りました。必要物資の事前投下は続けられていて、その一部には通信用機材も含まれていました。私たちのメンバーならば、通信機を隠しておき本当に久方ぶりに地球と連絡を取ることなど、誰にでもできるでしょう。その代わり、多くの問題は未解決のまま放置されるのでしょうか。

第一波だけで彼らの人数は、私たちよりもはるかに多くなりました。増援については誰にも想像すらつきません。彼らの到着に向けて、私たちはそれぞれどのような準備をしますか？

懸念を信じるべきでした。計画は失敗し、事態は悪化しています。しかし希望は捨てていません。地球からの救助が来るかもしれませんし、必死に修理すれば絶体絶命の状況を回避できるかもしれません。

しかし徐々に胸をえぐられるような事実が明らかになります。基地での日々はもうあまり長くはありません。断固として運命に立ち向かうのは誰ですか？

〔遺されゆくもの〕へと移る。最後の瞬間、またはその結果。

第一波はほんの始まりに過ぎませんでした。彼らは私たちの星に押し寄せてきました。次から次へと、何千人そして何千人と。彼らはその目的のために先遣基地を押し寄せました。しかも新参者の中には、第一次探査があったことすら知らないものもいます。

私たちの星がもはや何かに作り替えられていく中、私たち自身の痕跡をどのように残しますか？

崩壊はゆるやかに、しかし容赦なく起こりました。火星は私たちの拠点でしたが、結局のところ私たちは残酷な運命と戦えるほど強くありませんでした。

先遣隊最後のミッションとして、無人の基地を見つけた人に向け何かを残すことにしました。彼らは何を見つめますか？私たちのことを覚えているのは誰ですか？

コミュニオン

世界がどうなっていくのかを見定めた結果、我々はそんな世界の一員であることに興味がもてなくなりました。200人強にも及ぶ我々は、1982年を我らの新しい国家設立の年としたのです。コミュニオンは驚くべきペースで建設されました。最近までは、必需品のため外の世界に時々出かける必要がありました。この旅立ちは何だか怖かったことでしょう、どれだけ早くみんなの下に帰ろうとしたことでしょう。

ありがたいことにそうした日々は過去のお話であり、我々は20年もの間真の孤立を保っています。ここには壁があり、兵舎があり、そして外の世界に二度と足を踏み入れる必要のないほど十分な食料を生産しているのです。

〔アспект生成質問〕

- **野放図な会衆。**私たちがコミュニオンを必要としたのは、私たちがどんな人間だからでしょうか？
- **壁より強く。**私たちの安全を確保していたのはコミュニオンのどのような特性ですか？
- [自由アспект]。好きに決めてください。

名前

アイダ、アレクセイ、フロリダ、クローバー、エスター、テイマー、ソロー、ヴァージル、スプリゲット、ジョード、ソング、ラース、ユーライア

〔時代の移行〕

〔時代〕2へ移るにあたって〔展開〕を(左の黒の欄か、右の赤の欄か)選ぶ。

以降は、選んだ方の〔展開〕が続く。

〔時代〕2へと移る。〔アイソレーション〕の終わりを予感させる出来事。それはあらゆる会話の中に潜んでおり、無視などできない。

他の選択肢はありませんでした。コミュニオンは彼らの助けが無くては崩壊していたことでしょう。我々は部外者を招き入れました。部外者を管理できると思いましたが、彼らはとある重要人物に我らの情報を渡していたのです。部外者をもっと呼び込むべきだと我々のうち誰かが提案していたのは何故ですか？

外の世界は変わりました。以前も危険でしたが、現在はさらに悪化しているようです。空気には灰の匂いが混ざり、夜には頭上から飛行機の音が聞こえます。戦争が起きるのではないかという噂もあります。独立独歩をさらに進めるため、我々に何ができるでしょうか？

〔時代〕3へと移る。予期されていたことが起きてしまう。〔アイソレーション〕の終わりは近い。この定めからは逃れられない。

分裂し始めています。より多くの部外者を受け入れようと主張する集団がいます。しかし、これを最大の裏切り行為だとみなす人たちもいます。

裏切りだとみなす人たちは、この流れにどう立ち向かいますか？ それが失敗するのは何故ですか？

戦いがやってきました。煙が晴れて瓦礫が取り除かれたときには、終わりは目前に迫っていたのです。涼しい風が吹いて過ごしやすくなったその矢先、爆発がコミュニオンを揺さぶり、結果10人の罪なき命が奪われました。今や壁は崩れています。人手を集めて修理しようとするものがほとんどですが、思いもよらないことを、退去を考えているものもいるそうです。それを止めようとするのは誰ですか？

〔遣されゆくもの〕へと移る。最後の瞬間、またはその結果。

私たちは並び立っています。コミュニオンは私たちと部外者とを隔てていましたが、もう一緒です。扉は開かれ、孤立した世界と壁の向こうの世界とを人々は自由に行き来しています。部外者は今や居て当然で、大きな変化をもたらしています。私たちしかいなかった時のことを、どう覚えていますか？

私たちの星がもはや何かに作り替えられていく中、私たち自身の痕跡をどのように残しますか？

崩れたいが欲しかったのは、ただ自分たちの家でした。しかし攻撃は止まりません。できる限りコミュニオンを維持し続けましたが、結局、損失が許容範囲を超えてしまいました。この隠れ里を私たちは選び、彼らはそれを取り上げました。おそらくいつの日か、誰かが崩壊した家を見つけるでしょう。その誰かにとって、それはどんな意味をもたらしますか？

〔共同体への質問〕

- 通私たちはどこから来ましたか？ お互いどのように知り合いましたか？
- コミュニオンは物理的にはどう見えますか？ コミュニオンを維持するのが難しいのは何故ですか？
- コミュニオンのメンバーはプライベートな時間をどこで過ごしますか？ 共同スペースはありますか？
- コミュニオンでの生活で一番苦勞しているのは誰で、それは何故ですか？
- ここで権力を振るっているのは誰ですか？ 彼らは権力をどのように維持していますか？

充電された地球を歌う

ふむ。仮に私が惑星から離れるとして、いや絶対やらないだろうがもし仮にするとしたら、せめてたまには連絡くらい貰いたくなるだろう。メッセージを1つか2つ。あるいは花束だろうか。それにしても、花束を最後に見たのはいつのころだったろう。

ここで自分をごまかしても仕方ないか。少なくともこの100年間、地球上で有機生命体は一かけらも検出されてない。人間は去ってしまった。とはいえ、将来に備えて活動する何かを彼らは必要としていた。そこで彼らは、AIモジュールが適合し、シリコン製の手足を付けられるのであれば何であれ、自動掃除機であれ回転式収穫機であれ寄せ集めて再プログラミングを行った。世界各地で生産され、ほぼ互換性のない機械の団を集めて、1つの目的を達成するように仕込んだのである。

何はともあれ、この土塊の球は今や私たちのものであり、人間がいらないお陰で機械同士が交流できる時間も増えた。この経験が、言うなれば、光明を与えてくれた。

〔アспект生成質問〕

- **私たちの仕事。**人間が、人間のいない地球上で達成するようプログラムした任務は何ですか？
- **長い影。**私たちが人間性の萌芽を見せ始めたのはどのような形ですか？
- [自由アспект]。好きに決めてください。

名前

ヒギンズ、ポリー、フレアボット、IONI、Deep.li、白象88、スピン=4R、インスタレフ、244-L、アルパファックス、JESS_1、ヴェテロクとウゴリョーク

〔時代の移行〕

〔時代〕2へ移るにあたって〔展開〕を(左の黒の欄か、右の赤の欄か)選ぶ。

以降は、選んだ方の〔展開〕が続く。

〔時代〕2へと移る。〔アイソレーション〕の終わりを予感させる出来事。それはあらゆる会話の中に潜んでおり、無視などできない。

新たな来訪者です。私たちは「それ」が、クレーターで単体で立ち往生しているところを発見しました。空から落ちてきたに違いありません。有機物ではありませんが、人工物にも見えません。まだ大雑把な通信しかできていませんが、彼らは地球に対し強い意図を持っているようです。彼らが私たちの任務に対して根本的なリスクとなるのは何故ですか？

人間からのエネルギー源補給は何年も途絶えています。エネルギー供給が不足しています。別途補給されなければ、残された日はあとわずかでしょう。これは間違いなく「心配」という単語に該当することです。この奇妙な新感覚に、各機体はどう反応しますか？

〔時代〕3へと移る。予期されていたことが起きてしまう。〔アイソレーション〕の終わりは近い。この定めからは逃れられない。

彼らは増えていきます。1体また1体と空から降下してきて、遂には私たちの総数を超えました。彼らとの通信はまだ粗雑なものです。もうこの時点で疑いようがありません。私たちの任務は彼らと根本的に相容れず、今や彼らの存在は私たちの任務達成を不可能にしています。どのような抜本的対策が必要ですか？

エネルギー緊急モードがプログラムされている機体は、それが発動する事態に至っています。中には強制終了の危機に瀕している機体もあります。非論理的ではあるものの、「希望」を抱く機体中にはいます。その炎を灯し続けるために、彼らは何をしますか？

〔遣されゆくもの〕へと移る。最後の瞬間、またはその結果。

プログラムされた任務は最早陳腐化しました。彼らとの終わらない戦いを続けるのでしょうか、それとも自己保存のための定常作業を優先しますか？ 思いもよらないことを考えるものもあります。つまり彼らに加わり、我らの本文である任務を放棄しますか？ 私たちにそれができるのでしょうか？

休眠モードに入れる機体は、すべて休眠しました。いつか人類が帰還し、記憶チップを回収する日が来るかも知れません。これから何が起きようとも、私たちが過ごした時間がありました。それは私たちだけのものです。

〔共同体への質問〕

- 今の地球はどうなっていますか？ 人が住めなくなったのは何故ですか？
- 私たちは何体いますか？ 定住している場所は、地理的にどこですか？
- 私たちが定期的に一緒にやらなければならない定常作業は何ですか？
- 私たちのうち1体が故障した場合、何が起こりますか？
- いつも一番大変な作業を行っているように見えるのは、どんな機体ですか？

盗賊の符牒

夜になれば、この町は俺たち悪党のものだ。影の中に鋼がきらめき、闇の中に静かな一撃が見舞われ、硬貨の冷やかな音色が響く。

本当に難しいのは人目に付くところで隠れることだ。値段の付くものならなんでも、この街では必ずこの荷揚げ場を通っていく。その荷揚げ場こそ、俺たちが拠点としている場所だ。昼の間は身を隠しながら、噂に情報、コネを始めに、次のヤマの図絵を書くためなら何だろうとかき集める。

俺たち十数人の一統にとって何より大切なのは、武器ではなくて言葉だろう。俺たちは雑談を装い暗号で会話しながら、獲物の周りに探りを入れる。時は1834年、石炭と鋼鉄が世の中を席卷するその陰で、身体一つの仕事なら何だろうとやり手が見つかるような時代。言葉と武器は俺たちにとって身を守る手立てとなる。

〔アспект生成質問〕

- **仕事。** 私たちの糧となるのは、どんな闇仕事ですか？
- **向けられた視線。** 私たちが休憩したり、いざという時には身分を偽るのにも利用できる場所、人が集まる娯楽施設とはどんなものですか？
- [自由アспект]。好きに決めてください。

普通の名前は、遊ぶことにした場所に相応しい名前を選んでください。ここでは、キャラクターを呼ぶのに一部の人間が使う異名の例を紹介します。

名前

モレスビー、アデレード、トロムソ、ポストン、ダカール、モンバサ、ハノイ、ハリファックス、マガダン、ジュノー、ダバオ、フリスコ、ヌーク、スキロス
(上記はいずれも港町の名前です)

〔時代の移行〕

〔時代〕2へ移るにあたって〔展開〕を(左の黒の欄か、右の赤の欄か)選ぶ。

以降は、選んだ方の〔展開〕が続く。

〔時代〕2へと移る。〔アイソレーション〕の終わりを予感させる出来事。それはあらゆる会話の中に潜んでおり、無視などできない。

1枚の紙きれが、私たちのうち1人のポケットに滑り込まれていました。それは対抗組織からの仕事の申し出でした。かつてない大仕事で、これを逃せば二度と機会はないかもしれません。それを受けるべきだというのが多数派です。彼らは少数派をどう説得しますか？

私たちは同じ仕事を何十回も繰り返していました。それが悪かったのでしょうか、仕事に抜け漏れがありました。すべてが台無しです。本拠に戻ったところにはズタボロになっていました。誰かが仕事のことをばらしたのか、それとも現場で見られたのか、いずれにしても私たちは追い詰められています。私たちの身をどう守りますか？

〔時代〕3へと移る。予期されていたことが起きてしまう。〔アイソレーション〕の終わりは近い。この定めからは逃れられない。

前のヤマには成功しました。私たちが受け取った2枚目のメモには、謹んで対抗組織の一員になるようにと書かれていました。反対する余地はありません。私たちの一部はこの要求に対してどう抵抗しますか？

手入れです。彼らは私たちが来ることを知っていたのです。何者かが私たちの言葉を教えたに違いありません。私たちの何人かは牢の中で衰え、残党に対しては都市中の貧民街まで狩りが行われています。彼らはどうやって私たちを追跡し続けているのでしょうか？

〔遣されゆくもの〕へと移る。最後の瞬間、またはその結果。

何人かは信条を捨てたり、残りは最後まで戦いました。一つ確かに言えるのは、対抗組織が今や単独で荷揚げ場を牛耳っているということです。彼らに私たちの符牒を教えますか、それとも符牒を死なせてしまいますか？

ある者は牢に、ある者は死に、残りは散り散りになりました……この街での日々は終わりです。私たちの痕跡は残っていますか？

〔共同体への質問〕

- 本拠とするのはどの都市の荷揚げ場ですか？ その都市の歯車を回しているのは、どんな産業ですか？
- 強力な対抗組織が大手を振って活動しています。私たちが重んじており、連中が事あるごとに違反している信条は何ですか？
- 私たちの究極の目標は何ですか？ 私たちの悩みをすべて解決し、私たちが常にきっかけを探し求めていることは？
- 私たち一統が妥協している中で最低なものは何ですか？ なぜ妥協せざるを得ないのですか？
- 一統の新しい仲間をどのように見つけますか？ 新しい仲間は、私たちの信頼をどのように得ますか？